



和泉野

令和8年8月31日



<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izumino/>

「主体性」を育てるこれからの学校教育について

教務主任 酒本 哲也

長い夏休みが終わり、子どもたちの笑顔と元気な声が、学校に戻ってきました。今月の学校だよりでは、今の学校教育が目指していることについてお話したいと思います。

これからの社会は、AIの発展や急速な社会の変化により、正解がひとつではない時代へと進んでいます。そのような中で、学校教育では「主体性」、つまり自分で考え、自分で学び、自分の人生を切り拓いていく力を育てることがこれまで以上に重視されています。

文部科学省が進める次期学習指導要領の検討でも、「子どもたちが生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働しながら、自らの人生を舵取りできる力を育むこと」が大きな目標として示されています。

そのため、学校では、単に知識を覚えたり、今までやってきたことをなぞったりするだけではなく、

- ・「なぜ学ぶのか」を考えること
- ・自分で課題を見つけること
- ・試行錯誤しながら解決方法を考えること
- ・仲間との対話を通して考えを深めること
- ・学んだことを振り返り、次の学びにつなげること

を大切にした学習を進めていこうとしています。

また、一人一人の興味や関心、得意なことを生かしながら学べる環境づくりも進められています。子ども自身が学び方を選んだり、自分の学習を調整したりする経験を積むことで、「やらされる学び」ではなく、「自ら学ぶ子ども」の育成を目指しています。

主体性は、ひとりでに育つものではありません。友達や先生、地域の人々との対話や協働の中で、自分の考えを広げたり深めたりすることで育まれていきます。学校では、子どもたちが安心して挑戦し、失敗から学びながら成長できる環境づくりに取り組んでいます。

もちろん、環境的要因、人的要因など制限がある中での取組なので、持続的に実現可能な方法を教職員一同模索しながら進めています。

ご家庭においても、「正しい答え」を求めるだけでなく、「どう思う?」「なぜそう考えたの?」と子どもの考えを聞き、挑戦や努力を認めていただくことが、主体性を育てる大きな力になります。

学校と家庭・地域が協力しながら、子どもたち一人一人が自分らしく学び、自信をもって未来を切り拓いていけるよう支えていきたいと考えています。